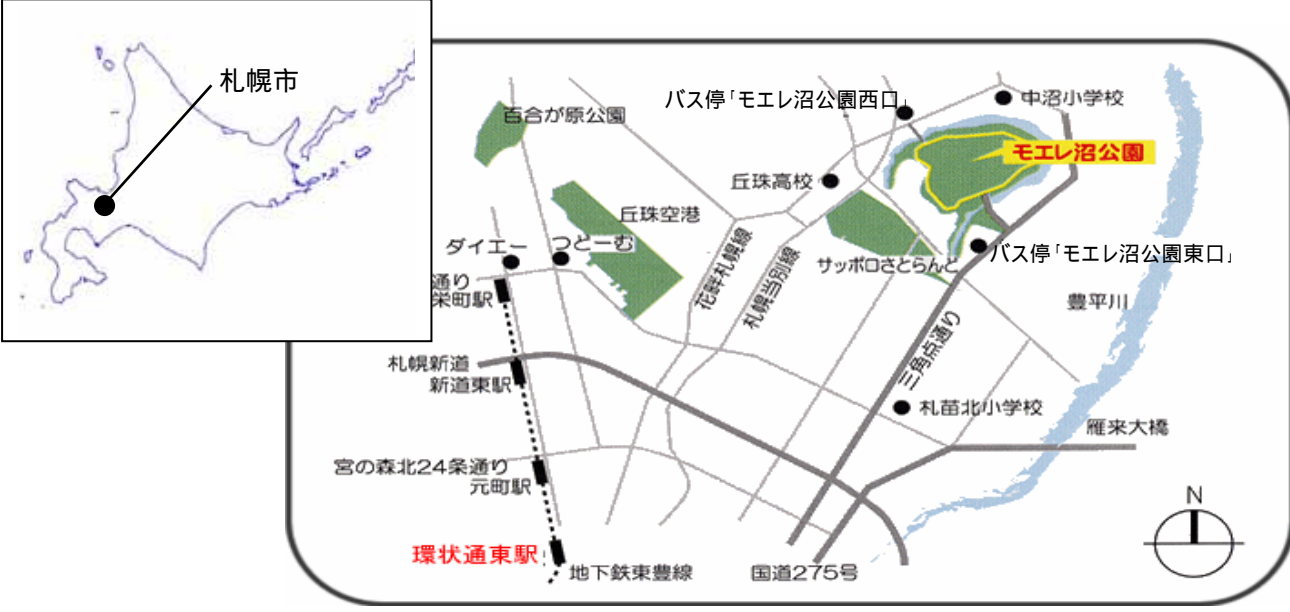


観光社会資本の事例

テーマ	公園全体がひとつの彫刻	
【施設の状況写真】		
		
<p>世界的に有名な彫刻家イサム・ノグチのマスタープランに基づき、「全体をひとつの彫刻」とみなし、広大な大地にモエレ沼公園が刻まれています。</p>	<p>ガラスのピラミッド “ HIDAMARI ” モエレ沼公園の中心的な施設です。アトリウムは、太陽光が射し、公園内を見渡せ、自然と一体化した、休息空間となります。</p>	
【施設の利用写真】		
		
<p>高さ52m(標高62.4m)の日本最大級の人工山(モエレ山)。山頂から360度の眺望が楽しめます。</p>	<p>美しい海辺をイメージした池(モエレビーチ)。夏には子供たちの歓声が響きます。</p>	
【観光資源としての利用状況】		
<p>札幌市では、来客2,000万人を目標に平成15年度より「集客交流・シティーPRキャンペーン事業」を展開しており、東京や大阪に掲示する札幌市の観光ポスターにモエレ沼公園を紹介し、札幌観光のPRに活用されています。</p> <p>また、公園全体がひとつの彫刻作品であるイサム・ノグチ氏が残したこのモエレ沼公園は、財団法人日本産業デザイン振興会より、2002年度グッドデザイン大賞を受賞するなど、世界的な注目を集めており、札幌の新しい顔として期待されています。</p> <p>平成17年7月1日にはモエレ沼公園がグランドオープンし、多彩なイベントで道内客はもとより国内外からの観光客を楽しませています。</p>		

テーマ	公園全体がひとつの彫刻
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 モエレ沼公園</p> <p>所在地 北海道札幌市東区丘珠町及び中沼町</p> <p>事業名 都市公園事業</p> <p>事業主体 札幌市</p> <p>事業期間 昭和57年度～平成16年度</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>ゴミ埋立地としての役割</p> <p>モエレ沼公園は、ゴミ処理場として利用した後、公園造成を行うユニークな事業として整備が始まりました。昭和54年からゴミの埋立てが始まり平成2年の処理場閉鎖まで、搬入された廃棄物の総量は270万tになります。</p> <p>建設副産物の有効利用</p> <p>「モエレ山」と「プレイマウンテン」は、札幌市内の公共工事から発生した建設残土を積上げ造られた人工山で、建設副産物の有効利用により完成しました。</p> <p>レクリエーションとしての効果</p> <p>天候や季節を問わずに多くの人々が憩い交流する「ガラスのピラミッド」を中心とし、宇宙・地球・自然をイメージした水の彫刻「海の噴水」、夏に子供たちの歓声が響く美しい海辺をイメージした「モエレビーチ」、イサム・ノグチ氏のデザインによる遊具が80基以上もある「サクラの森」などの各施設は、老若男女を問わず幅広い層に、また、多様化するレクリエーション・ニーズに的確に対応し、訪れた人にイサム・ノグチ氏が創出したダイナミックなスケールを、四季を通じて楽しませています。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】 札幌市のホームページ http://web.city.sapporo.jp/</p> <p>モエレ沼公園 http://www.sapporo-park.or.jp/moere/index.html</p>	